

令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立草加小学校
(令和8年2月3日作成)

1 学校教育目標 (1) 考える子 (しっかり聞く、はっきり話す、自ら考え解決する) (2) 思いやりのある子 (明るいあいさつ・返事、ていねいな言葉づかい、人に優しいあたたかな心) (3) たくましい子 (楽しく運動ができる、健康と安全に関心をもつ、進んで集団行動ができる)	
2 重点目標・努力目標 (1) 教科指導 ・校内研修を通じた授業改善の推進 ・学習規律の定着(「話を聞くこと」の徹底) ・0歳～15歳を見通した教育の推進 ・体育授業の充実 ・「考え、議論する」道徳授業の実践 (2) 生徒指導・教育相談について ・「あいさつは一生の宝物」 ・発達指示的な生徒指導の推進(よさを見つけ、鍛え、伸ばす) ・いじめの積極的認知、早期・適切対応 ・不登校未然防止の徹底 ・関係機関との連携を図る教育相談体制の確立 (3) 学校行事・教育活動全般において ・読書活動の推進 ・保健・食育指導の充実 ・防犯・防災対策の充実 ・特別支援教育・人権教育の充実	3 前年度の成果と課題 成果 ○保護者向け学校評価において、学校に対しての評価項目については、いずれも90%以上の保護者から肯定的評価を得た。 ○アンケート項目「学校は、教育活動の内容を適切に公開しているか」という設問については、メルマガ効果もあり95%の保護者が概ねそう思うと回答した。 ○各種学力・学習状況調査の活用や校内課題研修の取組により、児童の学力向上を推進した。草加市学力・学習状況調査では、平均正答率が全学年の全教科で市内の平均を上回るなど成果が見られた。 課題 ●登下校時のあいさつ ●ICT機器の活用。 ●不登校児童の増加。 ●幼保小中を一貫した教育の推進。 ●教職員の働き方改革推進。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○学校教育目標に掲げる知徳体の調和のとれた児童育成を意識した教育活動ができています。 ○教職員一人一人が使命と誇りをもって勤務している。 ○予算は本年度も99%以上執行率となる見込である。毎月管理職が確認し、決算監査も適切に行っている。 ●校務支援システムをさらに有効活用し会議のスリム化・教職員の共通理解・共通行動の徹底を図る。

運営に関するもの	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	<p>○外部から指導者を招聘し、研究推進委員長を中心に研究を進めた。授業を見合う活動や「単元デザイン」などをとおして、児童の主体的な学びを引き出す授業改善を進めることができた。</p> <p>●保護者に授業改善に係るねらいや目的を説明する機会を一層増やしていく。</p>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<p>○年度当初、時期を捉え危機管理マニュアルを確認し、共通理解ができています。</p> <p>○11月に草加警察の方を招聘し、初めて不審者対応避難訓練を実施した。</p> <p>○日々の安全点検等で明らかになった危険箇所は、即対応をできた。</p> <p>○学校保健委員会を実施した。</p> <p>●「自分の身は自分で守る」ことを児童に繰り返し指導していく。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	B	<p>○危機意識を高めるためヒヤリハットを共有し事故防止に努めた。</p> <p>○個人情報持ち出し簿の活用が図られている。</p> <p>○個人情報管理、施設管理の瑕疵による事故等は無かった。</p> <p>●施設の老朽化に伴い、市教委と連携を取り計画的な環境整備が必要である。</p>
	⑤地域との連携開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<p>○HP、すぐーる、各種たよりを通じて、保護者地域への情報提供、発信を心がけた。保護者アンケートでも肯定的評価をいただいている。</p> <p>○学校運営協議会は、当初の計画通り、4回実施し、学校経営にご意見を頂くことができた。</p> <p>○地域学校協働本部会議を3回開催した。</p>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<p>○幼保との交流給食を実施し、入学に向けて園児の関心・意欲を高めることができた。</p> <p>○歌声交流会やあいさつ運動で中学校との交流・連携ができた。</p> <p>●連携交流行事について、教育課程への位置づけを図り実施について調整していく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	○学校や児童の実態に合った、授業で活用できる学力向上プランの作成を、年間2サイクルで行った。そして、プランに基づき授業実践ができた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	○外部指導者を招聘しながら研修し、授業改善を進めることができた。 ○全国・県学力・学習状況調査に係る活用研修を行った。分析結果を各自指導法に生かすことができた。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	○「こころのおと」など学校独自の取組により、家庭と連携しながら道徳教育の推進を図ることができた。 ○外部講師を招聘した授業研究会の実施により、道徳授業の本質的な理解が進んだ。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	○外国語専科とALTが指導内容について綿密に打合せを行い、専科を配置した高学年はもとより、担任が授業を担当した中学年においても充実した学習活動を展開することができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	○異学年集団でのけやきっこ遊びを計画的に実施し、豊かな心を育むことができた。 ○朝の集会内容も工夫され、公開することで保護者の関心も高かった。 ●自己肯定感・自己有用感を育む学級会の充実を図る。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	○本校の特色を生かした学習活動を計画的に実施することができた。 ○活動の際、学校応援団の協力を得ながら進めることができた。 ●教科横断的な学びが深められるよう、年間指導計画の見直しが必要である。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	○毎月の生徒指導委員会・いじめ防止対策推進委員会で情報共有や、組織的な対応策の検討を行い、適切な指導を行えるようにした。 ○いじめ案件が起きた際は、初期の段階から管理職が関わり組織的に対応した。 ●引き続き、発達支持的生徒指導を推進していく。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	○各教科・特別活動・体験活動を通して、自分の生き方や将来を考える機会を設定した。 ●教科等の年間指導計画に明確に位置づけたキャリア教育を展開していく。

⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人の実態に応じた計画的な交流学習を行うことで、通常学級との交流が深まった。 ○支援を要する児童について、児童実態報告会、個別カルテ、特別支援校内委員会などで情報を共有し指導を充実させた。 ○分掌担当を中心に参観し、通常学級における支援を要する児童に対しての支援を行った。
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○司書教諭・学校司書が中心となり、「先生のおすすめ本紹介」「読書ビンゴ」「おはなし給食」などの取組を行うことで、読書活動を啓発できた。
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を積極的に活用した授業を展開することができた。 ●情報モラルや家庭でのタブレットの使い方に関する指導を引き続き行っていく。 ●効果的に活用できるよう研修を進めていく。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年間2回、教職員向けの人権教育研修を実施した。学校の実態に即した人権課題についての理解を深めるとともに、教職員の人権感覚を高め効果的な指導が行えるようにした。

(様式1・小学校用③)

草加市立草加小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	(1) 校内研修の充実 「学びに夢中！先生も子どもももっと楽しく！」	<ul style="list-style-type: none"> ・木々を大切に思う心が育っている。 ・季節の変化を感じている。 ・愛校心や郷土愛が育っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年3回の「学びウィーク」を通じてお互いが授業を見合うことで授業改善を図った。 ○「単元デザインシート」の作成を通じて、教師がその重要性を理解し、授業づくりに生かす視点を身に付けることができた。
	(2) 食育の推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の大切さを知る。 ・食物への関心を持つ。 ・食事のマナーを知る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内放送やホームページ、給食だより、学校保健委員会での給食紹介を通じて、児童保護者地域へ食事の大切さや食物への関心を高める活動を行った。 ○校内給食展、だし当てクイズ、和食の紹介、食育授業の実施等、様々な取組により食育の推進を図っている。
	(3) 地域学校協働本部会議の開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の経営方針を地域の方が理解している。 ・学校応援団の積極的な活用。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○会を3回実施し、ゆるやかなネットワークづくりの足がかりとなった。 ●本会議の趣旨を繰り返し説明し浸透させる必要がある。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 保護者向け学校評価において90%以上の肯定的評価項目が多く見られた。
- 校内課題研修の取組により、授業改善が進み、児童の学ぶ意欲の高まりがみられた。12月に行った標準学力調査では、全学年の全教科で標準偏差を上回った。学校だけではなく、家庭の教育力の高さも関係している。
- 挨拶について、児童の肯定的な回答の割合は高いが、保護者・教職員とも課題があると感じている。
- 夢をもつことや失敗を恐れず挑戦することは、児童は80%台だが、保護者は60～70%台で差が見られる。
〈学校運営委員会委員様より〉
- 自己肯定感・自己有用感の向上は学校だけではなく、家庭・地域でも積極的に行う必要がある。学校を核とし家庭・地域を巻き込む手立てを考えていきたい。
- 学校運営協議会と地域学校協働活動が両輪となって草加っ子の健やかな成長に寄与できるよう熟議を重ねていく必要がある。

6 次年度の改善策

- 自己肯定感や学力を高めるために、主体的な学びを育む授業の実践を積み重ねていく。
- タブレット端末を介しての児童同士のトラブルや家庭でのタブレット端末の不適切な利用が見られた。学校と家庭が連携し、情報モラルや端末の適切な扱いに関する共通理解を一層深め、指導体制を強化していく。
- あいさつについて、地域学校協働本部会議で議案として取り上げ、地域の力も借りながら改善を図る。
- 特定の時期や分掌に業務が偏る状況が依然としてみられることから、今後も業務の分担や進め方を工夫し、よりバランスのよい体制づくりを進めていく。